

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300421
法人名	有限会社 ケアビット
事業所名	グループホーム陽だまりの家 (ユニット名 コスモス)
所在地	福岡県八女市高塚212番地
自己評価作成日	平成25年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ施設の音楽療法士による定期的な音楽療法やアロマを使ったアロマクラフト作りなど外部の講師を招き実施している。近くの公民館で開かれているふれあいサロンへ毎月参加し地域の方々との交流を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は世代交流館の「共生の森」に隣接しており、同じ敷地内に住宅型有料老人ホームと小規模多機能型居住介護がある。広い敷地内には芝生が茂り、すももや夏ミカン、サクランボ、柿、金柑があり、畑には大根、ネギ、トマトなど一年を通して季節を感じられるようになっている。利用者も果実が育ち、食べごろになるのを楽しみにしており、利用者と一緒に収穫を行っている。毎月、5名ほどの利用者と一緒に地域の「ふれあいサロン」に参加し、又、事業所の行事の際には、ふれあいサロンより、カラオケやリズム体操などに参加している。地域や家族との関係を大切にしている取り組みが多く、地域密着型事業所として理念の実践に努めており、今後の発展が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年8月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ユニット会議時に理念を唱和し共有に努めておりその理念を実践するために事業計画を定めている	「尊厳」「安心」「感謝」「共生」「交流」の5項目の理念、運営方針、スタッフ実行目標を職員会議、ユニット会議時に唱和し、共有している。又、理念をもとにして各ユニットで、スタッフの具体的な目標を毎年話し合い実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の隣組の組織化になっており地域の行事などには参加をし又ホームの行事などがあるときには招いたりして交流を続けている	毎月、地域の高塚ふれあいサロンに参加したり、地域のよど祭りに利用者と一緒に手品などの出し物に参加したり、区域の運動会に参加したりしている。又、小学校の運動会や学習発表会に招待を受け参加している。道路愛護で地域清掃に利用者と一緒にいき、地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の勉強会を行ったり利用相談、見学に訪れる方々の認知症のご家族をもたれる悩みや相談に日常的に対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価はもちろん色々な議題を取り上げ報告や話し合いを行い意見をいただきサービス向上に努めている	運営推進会議は奇数月の第3月曜日を予定しており、民生委員、市職員、利用者・家族代表の参加で行われている。地域包括支援センターより、高齢者虐待の勉強会を行ったり、民生委員より、高塚地区の独居世帯の情報や消防団にホームの避難経路、点検をもらうなどの話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの入居相談を受け入居につながったケースなどもあり常に協力関係を継続できるようにしている	市からの入居相談や事業所の空き情報の提供など随時情報交換を行っている。地域包括支援センターから虐待の疑いがあるケースなどの入居相談もあるなど、協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、各ユニットで身体拘束を行っていないか検討している。また職員会議やユニット会議で勉強会を行っている。施錠は夜間のみ行っている。	身体拘束について勉強会をしており、拘束の弊害について理解している。玄関は7時～21時まで自由に出入りができるようにしてあり、出られることを想定して30分ごとの所在確認を行っている。家族の同意を得て「GPS」をお守りとして身につけている方や、利用者の安全のためにセンサーマットを使用している方もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの協力を得ながら運営推進会議で議題に取り上げたりし勉強及び防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議時に勉強会を行っている。実際に成年後見制度を利用している入居者の方がいる	市からのパンフレットや資料で事業所独自の資料を作成し、職員に配布し勉強会も行われている。成年後見制度を活用されている利用者もおられ、職員は制度について身近に感じている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得を図っており疑問な点などがある場合はその都度再度説明をし十分に理解していただくように努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置している。また、面会時など意見や要望を聴き、出来る限り反映できるように努めている。	意見箱を設置しているが、ほとんど入っていない。家族の方から直接に言われることが多く、職員も家族の訪問時に要望などを尋ねるようにしている。お楽しみ会での献立や外出は利用者の要望を聞き取り、早急に対応できるように努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員への聞きとりを行い、ユニット会議や、連絡会議で検討している。	管理者には意見等を言いやすい状況であり、レクリエーション活動やそのための物品、外出行事など企画書を提出することにより、管理者は会議に持ち込んで検討し取り入れ、ケアに反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の資格取得を推進しておりそのために勤務調整など行っている。日中の研修参加は基本的には勤務扱いにしている。個々の働きぶりに応じ役職や昇給を随時検討している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	高齢者介護の環境はさまざまな年代がいることのほうが良い環境作りができるとしておりその裏付けとして当事業所には20歳から69歳の年齢幅の職員が在籍しており性別年齢を理由にする採用基準はない 各職員で構成する各委員会を設けているがそれは自分たちで企画、実行を行うことでやりがいのある職場作りを目指すためのものでもある	事業所はハローワークに職員募集をしており、採用にあたり性別や年齢、資格を理由に採用からはずすことはない。職員の希望を取り入れた勤務体制をとっており、希望休は月に5回ほどとれる状態で、私的な活動やリフレッシュができ、働きやすい職場環境である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重のために利用者に対する言葉づかいを認識するように「言葉づかいの適正に関する評価基準表」を使い各職員へ指導している。	理念にある「尊厳」についての勉強会を行っている。年に1度職員に対して、言葉づかいのチェック表で自己評価を行うようにしており、言葉づかいや行動を振り返る機会を設けることによって人権教育を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員のスキルアップをめざし資格取得や各種研修の機会づくりを進める」という事業計画を立て研修に参加する機会を作っている 新人に対しては新人用の育成表を作成し指導している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会等を利用し勉強会、相互の関係性作りに努めている 他のグループホームなどから見学や話しを聞きにこられることもある		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントで情報収集を行い、安心して生活できるように信頼関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には連絡を密に行い安心して生活でき、信頼関係が出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にニーズの見極めを行い、他のサービス利用も検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや新聞折り、食事の盛り付けなど出来る事を一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等近況報告を行い、2か月に1回御家族への手紙を書き、情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅付近へのドライブやなじみの床屋さんでの散髪など行っている。また市の広報と一緒に読み出し話を傾聴している。	利用者が行きたい馴染みの場所へ行けるように可能な限り行っている。家族に電話を掛けたり、馴染みの美容室やお寺への送迎を行っている。又、馴染みの美容室が訪問してくるなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合いそうな方との席の配置や、共同作業(折り紙、貼り絵等)を支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談に対し、提案、助言をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人の意向をくみ取り、意向の反映に取り組んでいる。ドライブや外食、買い物など行っている。	日頃の生活の中で会話や表情を見ながら意向の把握に努め、職員は申し送りノートで共有している。夜間、自室からすぐに出てくる利用者がおられて、新しいシーツから使い慣れたバスタオルに交換したところ快眠へ繋げることができたこともあり、常に本人本位に検討するよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントで生活歴や生活環境等の聞き取りを行っている。また入居後も御本人から会話の中で聴きとったり、面会時等御家族からも情報収集行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態に合わせ、朝食の時間をずらしたり、休みたい時は臥床介助を行い、本人の状態に合わせ支援している。能力に応じ、散歩や手伝いなどしていただいている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聴き、毎月モニタリングを行い、3回月に1回カンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。	職員を担当制にして月1回のモニタリングと3ヶ月1回のケア会議を開催している。本人、家族の意向を聞き取り、自宅で行っていた洗濯たみをプランに取り入れるなど、チームで話し合い、現状に即した介護計画作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入や申し送りノートに記入し、問題点があれば、ケア会議で検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診や、かかりつけ医への受診、整形外科、皮膚科への受診など行っている。また個人の日用品の買い物の代行など行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや慰問の受け入れや、地域のふれあいサロンへ月に1回参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力機関の説明をし、同意を得てかかりつけ医としている。また、その時の状態に応じ、受診、通院の支援をしている。	月に2回、内科、口腔ケアの訪問診療を受けている。入居前のかかりつけ医を希望される利用者は職員や家族が受診の送迎をしている。結果情報は申し送りノートに記入し、全職員が共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事を口頭、または連絡ノートに記入し、適切な受診や処置が受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、定期的に面会に行き、状態や経過等を聴いている。また病院関係者やご家族との話し合いの場を作っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医より説明を受け、御家族と話し合い、出来る事、出来ない事を伝え、書面にて同意を得ている。また、面会時や電話などで、状態報告を行っている。	利用開始時に重度化や看取りについて事業所の方針を説明している。看取りを希望される利用者家族には、終末期には主治医から説明を行い、主治医を中心にチームで話し合いを行っている。家族はいつでも訪問でき、夜間の緊急時についても体制づくりができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で、救急救命法の講習や、看護師より急変時の対応等の勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定して訓練を行っている。また運営推進会議で訓練を行い、地域の方にも見学していただいている。	事業所は自動火災報知機とスプリンクラーを設置しており、年2回昼夜を想定して消防署の立ち合いのもと避難訓練を行っている。水害時と火災の避難場所を設定し、全職員が認識している。消防署、消防団などの提携もできている。備蓄については充分とは言い難く、現在検討している。	有事に備え、数日分の水やおむつ等の備蓄についても検討し、取り入れることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員理念を共有し、入居者様が目上の方としてプライバシーを損ねない様にし、一人一人の生活歴を把握し言葉かけ、声かけを行っている。	日ごろから、尊厳をもって声かけや対応を行うように職員間で注意し合っている。利用者の名前をいう場合も名字で呼ぶように配慮し、排泄面での声かけもプライバシーに注意しながら行っている。なれなれしくならないように方言についても勉強会などで検討している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も本人の希望をまず優先し、最終的には本人の決断を最優先している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人のペースをまず第一に考え支援している。1日の流れは決まっているが、利用者様一人ひとりにあった生活のペースで行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容院の方がこられ、希望者の方が受けられるように支援している。髪を染められる方もいる。日常的な身だしなみは声かけなどして気がけて行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者を囲み支援しながら食事している。利用者様で出来る方はテーブル拭き、洗い物など一緒に手伝われている。外出の際は弁当や外食なども行っている。	毎日、朝食以外の食事は母体の施設へ取りに行っている。利用者と職員は声かけ合いながら、テーブル拭き、配膳などを共に行っている。嚥下状態に合わせ食材をカットしたり、青魚が食べられない利用者には別メニューの対応をしている。月に1度、利用者と一緒に餃子やお好み焼き、焼きそばなどを作り、3食同様一緒に食べて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師より必要な方には栄養指導、または1日の食事量、水分摂取量をチェックし記録として残している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。週1回義歯を洗浄液につけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンを把握するように努めており、トイレの訴えが出来ない方は時間をみて声かけ、トイレ誘導を行っている。	入居時におむつ使用だった方が、排泄パターンを把握し、誘導を行うことで、リハビリパンツへ移行ができた。又、トイレの拒否がある場合には、なじみの職員の声かけで誘導を行うなど、利用者に応じた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各個人の排泄チェック表を見ながら薬を調整しながらケアをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに行い、体調に合わせている。拒否のある方はタイミングを考慮し、声かけを行い支援している。入浴剤を使用されている方もいる。	浴室に浴槽が2つあり、同時に2人入浴できるが、仕切りを置き、プライバシーに配慮している。入浴は週3回の実施である。入浴拒否のある利用者には散歩に誘い、気分転換を図ったりして、無理強いしないように支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて、昼寝をしてもらったり、自室で過ごしてもらうようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬など無い様に、スタッフ2名で確認し服薬してもらっている。用法など分からない時は看護師に確認する。主治医と看護師にて本人の体調に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ等のその方の力を生かした役割作り。ドライブ外食、外出支援といった楽しみ事を作り、気分転換の支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等の希望のある方は曜日を決めて支援し花見やドライブ等の外出支援を行っている。	近隣への散歩は車椅子の利用者も行っているが、現在は熱中症予防のため行っていない。母体施設へ食事取りに行く際に希望者と一緒にドライブを兼ねて出かけたり、文化センターへ花を観賞に行くなど、常時外出の支援を行い、戸外での楽しみを継続している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人でお金を管理されているかたもおられその方々の能力に応じた支援方法で支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思、希望に合わせ支援している。職員からの近況報告の手紙を出している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは自然の光が入るよう明るくされており、外出の写真や季節ごとの飾りをしたり、花等を玄関やテーブルの上に飾ったり工夫、配慮している。	ホールから段差なく芝生の庭に出ることができ、すもも、夏ミカン、さくらんぼなどが見え、1年を通して季節を楽しむことができる。食堂兼リビングには金魚の水槽が置かれ、畳のコーナーでは昼寝をする人もおられ、自由に穏やかな時間を過ごすことができる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、庭のベンチなどそれぞれ気のあった方同士、思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のなじみの深い物、使い慣れたものを持って来て頂いている。	畳部屋とフローリングの部屋があり、自宅での生活のように鏡台、筆筒、寝具などを置き、壁には家族写真や絵手紙が飾られ、家族とのつながりを感じることができるように工夫をしている。明るくゆっくりと過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、居室の表示は見やすい様にしている。入居者の状況に応じ居室にポータブルトイレの設置や安全面に考慮しコルマット等使用している。		